



「コロナ禍の中で考えること」

前橋市立保育所所長会

会長 関口 智子

(細井保育所所長)

小学校では、早々に運動会の中止が発表されており、保護者の方たちからは、「せめて一人の観覧でいいので、開催を」との声があるほどでした。16か所の公立保育所長の間で様々な意見が交わされましたが、子育て施設課との話し合いの結果、“開催の方向で”との結論に至りました。そこからは、各保育所との情報交換・職員間での話し合い等をもとに感染リスクを最小限に考えながら準備を進めていきました。答えのない状況の中ではありましたが、ようやく当日を迎えることが出来ました。

参加種目は、例年より少なくなかったものの、子どもたちは毎日元気いっぱい楽しそうに活動を行い、保育士も例年と同様に楽しめるようにと衣装や持ち物にも工夫を凝らし一緒に楽しみながら進めていました。

当日は、事前に配布をしておいた受付票を持参していただいたり、名札をつけていただいたりと制約もありましたが、子どもたちは普段以上の力を発揮し、無事に運動会を終了することが出来ました。

誰もが経験をしたことのない状況の中、コミュニケーションの大切さ、情報交換の有難さを身に染みて感じさせられました。

保育所には、保育士・調理技士・用務技士がいます。それぞれが、自分の仕事を責任をもって行っています。しかし、それだけでは保育所は成り立ちません。それぞれの職種間で「報告・連絡・相談」をしっかりと行い、日常の働きをお互いに認め合いながらコミュニケーションをもち、連携していくことが大切だと思います。その上で、保育所としての取組を共有し、同じ方向を向いて保育を進めていかななくてはなりません。

幼児教育が共通に育むものとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が策定されましたが、それらは、保育所(園)や幼稚園における、保育・教育目標の一つである「5領域」(健康・人間関係・環境・言葉・表現)をより具体的にしたものです。子ども一人一人の個性を尊重し、子どもの得意分野を伸ばして自信に繋がるよう言葉かけ一つとっても大切にしていきたいと思っています。そして、10の姿を成長の目安と捉え、子どもたちの日々の生活・遊びの環境を整えながら、生活の中で自然と育まれ身に付けていけるように保育計画を立て、保育活動に活かしていきたいと思っています。

現在もなお厳しい状況は続いています。新しい生活様式の中での保育の在り方、方法を考える良い契機となったことは、間違いのないことだと思います。